

《報 告》

## 在宅看護論実習における学生の学び —ケースレポートテーマから動向を捉える—

川上 友美<sup>1)</sup>, 石井 英子<sup>1)</sup>, 大橋 裕子<sup>2)</sup>, 藤丸 郁代<sup>2)</sup>, 青石 恵子<sup>1)</sup>,  
山口知香枝<sup>2)</sup>, 城 憲秀<sup>2)</sup>, 片倉 和子<sup>3)</sup>, 柘植 清美<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup> 椙山女学園大学看護学部, <sup>2)</sup> 中部大学生命健康科学部, <sup>3)</sup> 愛知医科大学看護学部, <sup>4)</sup> 元中部大学生命健康科学部

### 要 旨

本研究の目的は、A大学保健看護学科における在宅看護論実習を行った学生のケースレポートテーマから興味・関心（対象者および家族と看護者の関係性のあり方）を把握し動向を明らかにすることである。そして、ケースレポートテーマから学生の実習指導方法について検討するための基礎資料とする。多くの学生は、療養者の看護介入と身体面に着目していた。一方、学生は療養者と家族について看護の役割や社会資源の観点から興味・関心（対象者および家族と看護者の関係性のあり方）を示すことが少なかった。これらの結果から、社会背景に伴って変化し多様化している社会資源や保険制度の理解に繋がるように、教育や指導が必要である。

キーワード：在宅看護論実習 看護学生 学び 動向